



錦ヶ丘小だより

令和3年7月13日発行
仙台市立錦ヶ丘小学校
校長 菅原 弘一
児童数 1052人
【5号】

協働型学校評価重点目標 「学校・家庭においてたっぷりと時間を確保し、読書に親しむ」

久しぶりに訪ねてきた教え子

何十年も前に5,6年の2年間を受け持った教え子の1人が、我が家を訪ねてきました。小学生2人の父親になっているのですが、子供の学校での生活や家庭での子育てのことで悩みがあるから聞いてほしいというのです。もちろん、学校の先生とは話し合っているのだけれど、別の角度からの意見も聞きたいということで、連絡をしてきました。年賀状の交換などは続けていきましたが会うのは久しぶりで、うれしくもあり、相談に答えられるか、少しばかり緊張もありました。そして、彼の父親としての悩みや学校への思いなどに耳を傾けた時間は、担任だった頃の自分のことを思い起こす時間にもなりました。

彼を受け持った頃の私は、教員になりたてでしたから、当然、授業も分かりにくいし、子供たち同士のトラブルもうまく解決してあげられないし、家庭への連絡もきめ細かくできていたわけではなく、保護者目線で見れば、いわゆる「ハズレ」の先生だったのだらうなと思います。中には、前年度の担任だったベテラン先生のやり方を紹介してくれて、こんな指導はどうかと、アドバイスをしてくれるようなお母さんもいました。それでも、幸い、私の未熟さを責める保護者の方は1人もいませんでした。そのような寛容さに助けられ、心折れることなく教員生活を続け、やっと、ここまで来ることができたのだと改めて感謝の気持ちを抱きました。

さて、彼の相談内容をここでつまびらかにすることはできませんが、教え子に対し、私の経験から、あくまで学校の立場で助言したのは主に、次のようなことです。

- 40名近くの子供が、教室という1つの空間で過ごすのだから、何でも自分1人の思い通りにするということは難しい。
- 子供は未熟なわけだから、子供同士の関係性の中で、時には先生との間で、良いことも困ったことも様々なことが起きる。(もちろん、困ったことは起こらない方がいいし、予防に努めるけど。)
- 子供は、自分自身でもどうにもならないようなことで、イライラや不安を募らせることがある。
- 先生は1人で、40名近くを相手にしているわけだから、申し訳ないことだが、目が届かなかったり、配慮が足りなかつたり、間違えたりということは、当然起こりうる。(そういう場合、学校は真摯に受け止め改善を図る。)
- 親が見ている子供の姿と学校や児童館などで先生が見ている子供の姿は、必ずしも一致しない部分がある。(それが人間だと思う。)
- 子供が述べる不満が、そのまま、教室の中で起こっている事実とは限らないこともある。(もちろん、事実である場合もあるので、学校は事実の確認を大切にしている。)
- 親として、学校や先生の対応に疑問を感じたとき、それを学校や先生への批判の言葉にして子供に聞かせることは、問題の解決には役立たない。(先生への信頼度を下げ、不満な気持ちを高めるだけで、不満を口にすれば、自分の思うように誰かが代行してくれるものと学んでしまう恐れがある。)
- まずは、先生と良く話し合うことが大事。先生も、言われないと気付かないことがあるし、1人の先生ができることには限界もある。(学校として解決を図らなければいけないこと、関係機関と連携しなければならないこともある。)

- 子供に表れているその様子をどのように理解すればよいか、この先、どのような子供に育てていきたいのか、そのためにどのように指導をしていくのが良いのか、学校と親との間で方向性を一致させることが大切。
- 学校で先生から言われることも、家で親から言われることも一致しているということが重要なのであり、それこそが、家庭と学校の『連携』である。
- 子供の前に、乗り越えることもできないような大きな壁が立ちはだかっているなら、もちろん、その壁は取り払う必要がある。でも、多少の手助けで乗り越えられるような段差なら、その段差を取り払うことに力を注ぐよりも、その段差を乗り越えることができるような手助けに力を注ぎたい。
- 小学校のうちは良いけれど、中学、やがて社会人ともなれば、そうそう自分1人の思い通りにはならないことばかりだということは、大人は実感しているはず。
- そして、親が子供の気持ちを汲んで何かを代行するということができるのは、いったい、いつまでなのかということも考えなければならない。
- ケースは様々で一様ではないので、簡単に言えることではないが、子供自身が力を付ける、子供がしっかりと自立していくということが、親にとっても学校にとっても共通の願いではないか。

彼とは、昔話も交えながら2時間以上話したでしょうか。もちろん、何かスッキリ解決したわけではないのですが、少し整理が付いたような表情になってくれて、ホッとしました。この文章をお読みになっている方の中には、「それは違う」と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、私が大切な教え子と、その子供たちの将来を思って、このとき話したのは、以上のようなことでした。

本校の重点目標は、「対話＝温かいコミュニケーション」です。この夏の個人面談も、保護者の皆様との対話の機会として大切にしていきます。学校としては、子供たち一人一人の健全な成長を願っており、場合によっては、教頭、主幹教諭等の担任以外の教員が同席させて頂くこともあります。ぜひ、子供たちの将来のために必要なことは何かを一緒に考えさせてください。

コミュニティ・スクール（学校運営協議会）導入に向けて準備を進めます

仙台市では、令和4年3月には、全ての市立学校・園で「学校運営協議会」を設置することとなっています。前半の話題ともつながってくるのですが、コミュニティ・スクールでは、「どのような子供を育てたいのか（育む子供像）」について、学校・家庭・地域が目標を共有し、お互いの役割を理解することを大事にします。その上で、学校は学校、家庭は家庭、地域は地域の役割を分担しながら、それぞれが当事者意識を持ち、一体となって子供と関わっていくような教育を目指していきます。

錦ヶ丘小学校は、錦ヶ丘中学校と共に、1つのコミュニティ・スクール（学校運営協議会）となることを予定しており、このことは、学校評議員・学校関係者評価委員の皆様にもご理解頂いております。令和4年3月には、第1回目の学校運営協議会を開催し、コミュニティ・スクールとしてスタートできるように準備を進めます。準備状況については、今後も学校だより等で、お知らせしていきます。

※ 仙台市としての考え方については、『仙台版コミュニティ・スクール』を参照ください。

https://www.city.sendai.jp/manabi/kurashi/manabu/kyoiku/inkai/kanren/documents/snedai_cs.pdf

